事務事業評価における総括

部　局　名	建設部	記入責任者	榊原　敦

評価について（現状と課題）

【事業の達成状況について（現状）】

建設部は道路、公園、市営住宅等の定例定型的な維持管理業務が多いため、全体としては、例年どおり順調に推移しています。政策的事業については 36 事業のうち 17 事業でＳ評価、12 事業でＡ評価、1 事業でＢ評価、2 事業でＣ評価としていることから、成果としては概ね順調と考えています。

なお、Z 評価、実績なしはそれぞれ 2 事業としています。

【達成できた（できなかった）要因についての分析（課題）】

道路、公園、市営住宅等の事業が達成できた要因としては、コロナ禍の厳しい職場環境においても職員の不断の努力や創意工夫により、事務の改善や業務の効率化が図られたことが要因と考えています。

公園緑地課の「氷室椿庭園建物保存整備事業」については、耐震工事等が行えず、未実施のＺ評価としていますが、必要な修繕等を行うなど適切な維持管理に努めています。また、「市営水泳プール管理運営事業」については、コロナ禍において閉場したため未実施のＺ評価としています。

「中央公園再整備事業」については主な再整備事業が完了したため、「（仮称）高架下公園再整備事業」については平成３０年度より事業を休止しているためそれぞれ実績なしとしています。

今後の方向性

【政策・施策目標の達成に向けた今後の方向性について】

インフラ事業の多くは特定財源への依存度が高く、国や県の財政状況によって、道路・公園整備、地籍調査等の進捗が大きく抑制される原因となっています。

また、維持管理業務については、市民ニーズが高い一方、昨今では、常時の維持管理に加えて、風水害等非常時への対応も増加傾向にあるため、市民に安全安心な日常生活を提供するサービスの低下が懸念されます。

このような状況の中で、ハード事業が中心である政策・施策目標の達成に向けては、財源・人材の確保が喫緊の課題でありますが、「茅ヶ崎市財政健全化緊急対策」や「茅ヶ崎市新型コロナウィルス感染症対策パッケージ」等の取組みにより、ハード事業のための財源確保が難しい状況が続いています。

今後も、質の高い市民サービスを提供するため、不要不急の視点を捉えた事業の見直しを進めるとともに、業務の優先度に応じてしっかりとメリハリを付けて事業費や人員の重点化を図ってまいります。